

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かつたり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくななるよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間	目標達成状況(任意)
1	10	家族とご利用者との関係作りやコミュニケーションが希薄になり、理解や協力が得られにくい。	家族との細やかな報告や連携を通して、ご利用者の日々の状態を把握していただく。	受診時や衣替えの時季には家族の協力を依頼し、ホームへ足を運んで頂き、ご利用者の状況を把握していただける支援を行う。ご利用者・家族・職員のコミュニケーションを図っていく為、各居室に交換ノートを作成し、お互いの要望や思いを綴る。また、ご利用者の誕生月の家族の都合のつく日に、誕生会を実施し、一緒に食事ができるような機会を設ける。	12か月	
2	49	個別に合わせた外出や希望に応じた外出ができず、施設内で過ごす事が多い。	短時間でも良いので、ご利用者の思いや意向に沿って外出したり、環境や雰囲気を変えて楽しいひとときを過ごせるようにする。	面会時には、気軽に外出や外泊ができる事をお伝えし、お盆やお正月、お祭りなどご家族の協力を得て、戸外の空気に触れる機会をもつていただく。また、少人数づつの外出、外食を実施し、地域の方との交流も図って行く。	6か月	
3	23	利用者個々の暮らしの希望やこれからどう生活したいか等の意向が十分に把握できていない。	日々の関わりを通し、希望やその思いを引き出すような言葉かけを行い、情報収集に取り組む。	職員全員が、介護計画作成に関わる機会を増やすと共に、介護計画についての情報交換や学習機会を定期的に設け、利用者の思いを知るように努めていく。	3か月	
4					か月	
5					か月	

サービス評価の実施と活用状況表

事業所のサービス評価の実施と活用状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	○ ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	○ ②利用者へサービス評価について説明した
	○ ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	○ ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	○ ⑤その他()
2 自己評価の実施	○ ①自己評価を職員全員が実施した
	○ ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	○ ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	○ ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	○ ⑤その他()
3 外部評価(訪問調査当日)	○ ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	○ ②評価項目のねらいを踏まえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	○ ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	○ ④その他()
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	○ ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	○ ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	○ ③評価機関へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	○ ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	○ ⑤その他()
5 サービス評価の活用	○ ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	○ ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	○ ③「目標達成計画」を評価機関へ説明し、提出した(する)
	○ ④「目標達成計画」に則り、目標達成に向けて取り組んだ(取り組む)
	○ ⑤その他()